

他大学の实地調査に基づく北海道情報大学学生食堂の現状と課題

長尾 光悦 小林 裕樹
北海道情報大学

Current Situations and Problems of University Cafeteria in
Hokkaido Information University based on Fieldwork of Other Universities

Mitsuyoshi NAGAO and Yuuki KOBAYASHI
Hokkaido Information University

平成26年11月

北海道情報大学紀要 第26巻 第1号別刷

〈報 告〉

他大学の实地調査に基づく 北海道情報大学学生食堂の現状と課題

長尾光悦* 小林裕樹†

Current Situations and Problems of University Cafeteria in Hokkaido Information University based on Fieldwork of Other Universities

Mitsuyoshi NAGAO* Yuuki KOBAYASHI†

要旨

現在, 全国の大学の学生食堂は多様な進化を遂げている. 魅力的な学生食堂の運営は, 在学生に恩恵があるだけでなく, 受験生がその大学を志望する理由のひとつとなり得る. 本稿では, 札幌近郊の4大学における学生食堂の实地調査を行い, それに基づき北海道情報大学の学生食堂の現状を明らかにし, 課題について考察する.

Abstract

Recently, university cafeterias in Japan has made various progress. Appealing university cafeteria not only gives benefit to current students, but also leads increment of prospective students before entrance examinations. In this paper, we conduct fieldwork of university cafeterias in four universities near Sapporo. Moreover, we reveal the actual states of cafeteria in Hokkaido Information University, and then consider the problems.

キーワード

北海道情報大学 学生食堂 实地調査 アンケート調査

* 北海道情報大学経営情報学部システム情報学科准教授, Associate Professor, Department of Systems and Informatics, Faculty of Business Administration and Information Science

† 北海道情報大学経営情報学部システム情報学科4年生, B4, Department of Systems and Informatics, Faculty of Business Administration and Information Science

1. はじめに

現在、全国の大学の学生食堂は多様な進化を遂げている[1][2]。例えば、神奈川大学では、地産地消に力を入れており、横浜市神奈川区三枚町の契約農家から、朝取りキャベツなど、新鮮な地元の有機栽培の野菜を仕入れている[3]。北海道大学や東京大学の学生食堂では、イスラム圏からの留学生の要望を受け、豚肉やお酒などを使用していないイスラム法において合法的なハラール食を提供している[4]。また、成城大学では、宝島社とのコラボレーションにより、レシピ本「syunkon カフェごはん」のメニューを提供する試みを行っている[5]。更に、神田外語大学では、韓国やインドネシアなどアジア各国の本場の食を通して、アジア文化に親しむための学生食堂の運営を行っている[6]。このように、各大学において多種多様な取り組みが行われている。

学生食堂の魅力向上に努める大学が増加傾向にある理由として、大学間の競争が激化していることが一つの要因として挙げられる。文部科学省の調査によると、全国の大学数はこの10年間で11.4%増加しているものの、入学者数は1.6%の増加と、大学数の伸びに対して入学学生数の伸びが著しく低い[7]。また、2018年より18歳以下人口が減少期となり、大学進学者数が減少に転じるため、魅力的な学生食堂の運営は、受験生がその大学を志望する理由のひとつとなり得る[8]。更に、受験生の獲得のみではなく、在学生間のコミュニケーションの促進や、講義への出席率の改善にも繋がるため、学生食堂の魅力向上は大学にとってもメリットの大きなものになりえる。

このような風潮の中、著者らが所属する北海道情報大学の学生食堂は、メニュー数の少なさ、営業時間の短さなど、魅力度が低いとは言いがたい現状にある。このため、

今後、魅力ある学生食堂を実現していくためにも、その基礎データとして学生食堂の現状を調査分析する必要があるものと考えられる。

これまで、学生に対する食生活指導や食生活の実態把握の観点から学生食堂を調査した研究などが散見されるがその数は少ない[9][10][11][12]。

本稿では、他大学の現地調査を行い、他大学との比較に基づき北海道情報大学の学生食堂の現状を明らかにする。更に、学生に対してアンケート調査を行うことによって学生の利用状況や満足度調査を実施する。これらの結果を踏まえ、学生食堂の課題と改善について考察を行う。

2. 学生食堂の現地調査

2-1 調査概要

北海道情報大学（以下、本学）の学生食堂の現状を把握するために、他大学の学生食堂の現地調査を行い、比較を行った。調査は、本学に加え、札幌圏に存在する、北翔大学（以下、北翔大）、北海道工業大学（以下、道工大、平成26年4月より北海道科学大学に改名）、北海学園大学（以下、学園大）、札幌大学（以下、札大）の4大学において実施した。

北翔大は、本学と同じ江別市に存在する大学であり、学生数が2071名と本学の1786名と規模が同程度であるということから選定した。また、道工大は学生数が2719名と本学よりも比較的規模が大きいものの、本学に類似する工学・情報学系学科を持つ大学ということで採用した。学園大は、学生数8456名と非常に規模の大きな大学であるが、大学生協が運営する学生食堂を持つことから選定した。札大は、学生数3450名と規模は本学と比較し大きいですが、学生食堂において様々な取り組みを行っていることか

ら採用した。

各大学の調査は、2013年11月11日から12月12日の期間内に実施した。調査では、提供メニュー、営業時間、利用者数を調査した。利用者数は、学生食堂の開店時間から14時までの間、レジおよび食券販売機付近において人数計測を行った。調査対象となる全大学において複数の学生食堂があるため、利用者数のカウントは主要な学生食堂でのみで行うこととした。本学では「学生食堂」、学園大では「G'caFe」、札大では「カモール」、道工大では「HITプラザ食堂」、北翔大では「hashi」において計測を行った。これら調査を行った学生食堂を図1から図5に示す。

2-2 实地調査の結果

調査結果を表1に示す。表における「メニュー」はメニュー数、「日替」は日替わりメニューの数を表す。また、メニュー数においては、同一品目の量の違い（大盛りなど）は1品目として集計し、飲み物はメニュー数に含めない。更に、調査を実施した2013年11月時点で、札大におけるPaletteは休業中、小手毬は予約営業のみであったため営業時間のみを記載している。

2-2-1 学生食堂数

学生食堂の数は、札幌大学の4ヶ所が最も多く、次いで道工大が3ヶ所、その他3校は2ヶ所であった。また、学生食堂の設置場所について、札大、北翔大の2校が1つの建物に集約しているのに対し、本学、学園大、道工大はそれぞれ離れた場所に学生食堂を設置している。

2-2-2 営業時間

営業時間は、最も長く営業している学生食堂は、道工大の20時までであり、最も短いところは、本学と北翔大の14時までであ



図1 本学 学生食堂

った。また、調査対象の大学の中で、唯一、学園大の2つの学生食堂が土曜日営業を行っていた。

2-2-3 メニュー数

各大学の主要学生食堂のメニュー数では、学園大のG'caféが、特選ハンバーグ丼やビーフカツ丼などの主食から、牛タンメンチといった主菜、揚げ出し豆腐等の副菜など、合計80種類と最も多くのメニュー数を提供している。札大のカモールでは71種類と、他の3校と比較し多い結果となった。道工大のHITプラザ食堂、北翔大のhashiの2つが45種類、及び、46種類とほぼ同数であり、本学の学生食堂は24種類と他大学の学生食堂と比べ、メニュー数が最も少ないことが確認された。



図2 学園大 G'café

図4 道工大 HIT プラザ食堂

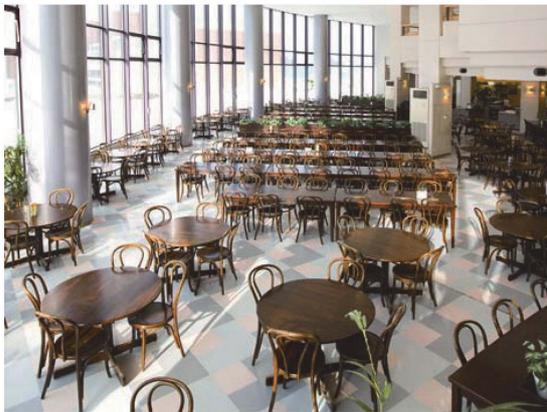


図3 札大 カモール (写真上はリクナビ進学より)

図5 北翔大 hashi

表 1 調査結果

大学	食堂名	営業時間	メニュー	日替	その他
HIU	本学食堂	11:00～14:00	24	5	
HIU	本学カフェテリア	11:00～16:00	31	4	
HGU	G'caFe	10:30～19:30	80	0	土曜営業有
HGU	ハマナス	10:30～18:00	49	0	土曜営業有
SU	カモール	11:00～16:00	71	0	
SU	サピオ	10:00～13:30	41	0	
SU	小手毬	11:30～14:00			火～木曜予約営業
SU	Palette	10:00～14:00			焼きたてパンの提供
HIT	HIT プラザ食堂	10:30～14:00	45	5	
HIT	5号館食堂	8:30～20:00	48	8	
HIT	HIT プラザ喫茶	10:00～15:00	27	3	
HU	hashi	11:00～14:00	46	9	
HU	Central CAFE	11:00～16:30	27	2	ラウンジ hidamari 隣接

HIU：本学，HGU：学園大，SU：札大，HIT：道工大，HU：北翔大

2-2-4 日替わりメニュー数

日替わりメニュー数は、道工大の HIT プラザ食堂、北翔大の hashi、本学の学生食堂では、それぞれ 5 種類、9 種類、4 種類のメニューが提供されている。但し、それぞれの大学にある学生食堂すべてで合算した場合、道工大では、5 号館食堂、HIT プラザ喫茶を合わせ 16 種類、北翔大では、Central CAFE を合わせ 11 種類、本学では、カフェテリアを合わせ 9 種類という結果となった。いずれの場合も、本学が最も少ないという結果になった。学園大と札大の 2 校は、日替り・週替りのメニューの提供はなかったが、前者は季節限定メニューの提供、後者は定期的にメニュー全体の変更を行っている。

2-2-5 価格帯

各大学における全学生食堂のメニュー価格は、札大が平均 278.5 円、本学が平均 242.7 円、道工大が平均 302.2 円、学園大が平均 299.7 円、北翔大が平均 276.9 円という結果であり、本学が最も価格が安いという結果になった。しかしながら、これは、セット

メニュー数が少なく、100 円から 200 円程度のサイドメニューがそれと比較し多いため、このような結果となった。

2-2-6 利用者数

図 6 に学生食堂の利用者数の結果を示す。図 6 において上のグラフが利用者合計を表し、下のグラフは時間帯ごとの利用者数を示している。利用総数が最も多かったのは、札大の 427 人、次いで道工大は 343 人であった。本学は 325 人、学園大は 313 人、最も少なかったのは、北翔大の 196 人であった。調査対象校の中で最も学生数が少ないのが本学であるが、本学よりも規模の大きな大学と同程度、更に、規模が同等程度の北翔大と比較して非常に利用者数が多いことが確認された。

また、時間帯ごとの利用者数については、本学の学生食堂が 12 時から 12 時 30 分の時間帯の利用者数が非常に多い結果となった。一方、他大学の学生食堂は、12 時前の時間帯から利用者数が増加しており、利用時間帯が分散していることが確認された。これらの結果から、本学の学生食堂は、利用者が多く、かつ、昼のピークの時間帯に集中する傾向があ

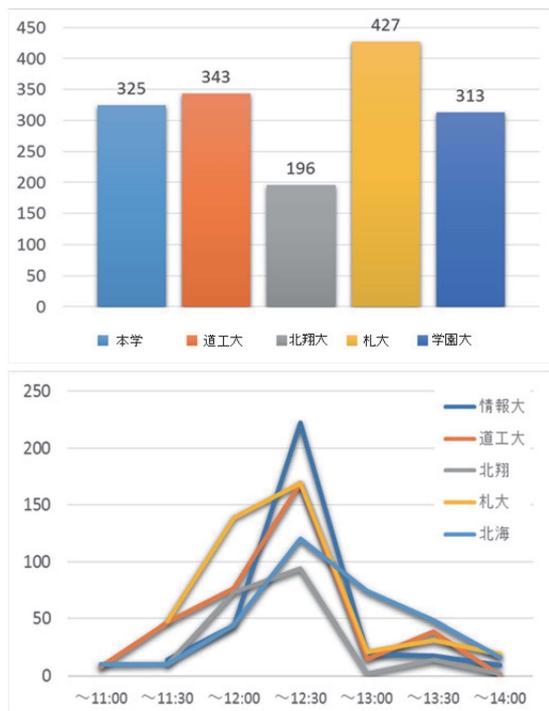


図6 学生食堂の利用者数

るといえる。

2-2-7 他大学における実施サービス

本調査において、学園大と札大ではメニュー数の多さ、北翔大と道工大では日替わりメニューの種類が多さ、学園大と道工大では営業時間の長さが特徴として確認された。

また、学園大と道工大では、初冬のおすすめメニューや期間限定ラーメンなど特別メニューの提供が行われていた。学園大と札大において、10種類以上の品目の中から自由に選択することができる量り売りのサラダバーの提供が確認された。更に、札大では、おしゃれな食事処や毎日焼きたてのパンが提供されるパン屋の運営、東北大震災への募金が行われるリムデイランチ・リムメニューの提供が行われていた。

本学においては、主だった特徴は確認できなかったが、提供されるお茶の種類が他大学よりも多いという点が唯一の特徴であった。

2-2-8 会計方法

支払い方法は、食券を用いたもの、プリペイドカードを用いたものなど、大学によって異なる形式を採用していた。道工大では、唯一、楽天Edyによる電子マネーでの決済が可能となっていた。また、メニューの一部について、Edyでの支払いでのみ割引が適用されるものが存在した。

3. 本学でのアンケート調査

3-1 アンケート調査概要

実地調査の結果に基づき、本学において、学生を対象としたアンケート調査を実施した。調査は、学生93名（1年生17名、2年生31名、3年生19名、4年生26名）を対象として実施した。

アンケートは、全27項目から成り、昼食の予算、学生食堂やカフェテリアの利用頻度、魅力、不満、満足度、他大学の学生食堂の利用経験の有無といった本学の現状調査を意図した質問項目、更に、期間限定メニューの提供、営業時間の長さといった、他大学の学生食堂において実施されているサービスの魅力度の調査を意図した質問項目から構成されるものである。

3-2 アンケート調査結果

3-2-1 昼食の予算

学生の昼食代の予算では、200円以下と回答した学生が19名、300円以下が22名、400円以下が21名、500円以下が29名、500円以上が1名であり、全体平均は368円という結果であった。学年別に平均額を見ると、1年生は365円、2年生は339円、3年生は361円、4年生は425円という結果となり、4年生のみが他の学年と比較し高いものとなった。4年生の場合には、講義スケジュールから1週間に数日しか大学に来ない学生がいる。そ

のため、1回の学食利用に対してかけられる金額が大きいという可能性が考えられる。また、本学のセットメニューは400円からとなっているため、予算から見るとバランスの取れた昼食を取れるのは50%弱の学生であると推察される。

3-2-2 利用頻度

学生食堂及びカフェテリアの利用頻度を図7に結果を示す。図から、学生食堂、カフェテリアともに「ほとんど利用していない」が最多となり、多くの学生がこれら施設を利用していないことが明らかとなった。次いで、「週に2、3回利用している」と回答した学生が多く、「ほぼ毎日通っている」と答えた学生は、学生食堂で8%、カフェテリアで4%と非常に低い値となった。この結果から、本学の学生食堂を利用している学生は少なく、学生の支持が獲られていないものと考えられる。

昼食の予算毎に、学生食堂、カフェテリアの利用頻度を集計した場合、学生食堂では、300円以下の予算において「利用しない」と回答した学生の割合が最も多かった。400円以上の予算帯においては、「週に2、3回利用する」と回答した学生の割合が多かった。これは、セットメニューの価格が400円以上であるためであると考えられる。しかしながら、「週に2、3回利用する」に次いで多かった回答は、「利用しない」であり、学生食堂でセットメニューなど十分な昼食を取る予算を有していたとしても利用しない学生も多いことが確認された。一方、カフェテリアでは全予算帯で「利用しない」と答えた学生が最も多かった。

3-2-3 学生食堂・カフェテリアの満足度

学生食堂、及び、カフェテリアの満足度の集計結果を表2に示す。これら満足度調査においては、「とても満足」、「やや満足」、「やや不満」、「とても不満」の4段階で調

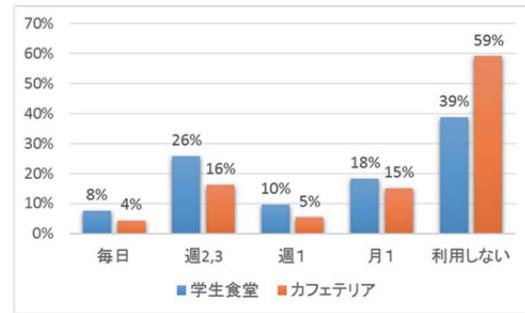


図7 学食・カフェテリアの利用頻度

査を行った。表における満足は、「とても満

表2 学生食堂・カフェテリアの満足度

	学生食堂		カフェテリア	
	満足	不満	満足	不満
全体	56%	44%	78%	22%
他大有	38%	62%	75%	25%
他大無	61%	39%	79%	20%

足」、または、「やや満足」と回答した割合、不満は「とても不満」、「やや不満」と回答した学生の割合を示している。

この結果から、学生食堂に対して満足度回答した学生は56%、不満と回答した学生は44%という結果になった。また、カフェテリアにおいては、満足が78%、不満が22%という結果になった。

学生食堂、及び、カフェテリアの満足度はそれほど低くはなかった。しかしながら、この結果を他大学の学生食堂の利用経験別に集計した時、利用経験がある場合、学生食堂で満足が38%、不満が62%となる。利用経験がない場合には、満足が61%、不満が39%という結果となり、利用経験がある場合、著しい傾向の変化が確認された。一方、カフェテリアにおいては、これらにおいて差は見られなかった。

3-2-4 学生食堂・カフェテリアの魅力と不満

学生食堂とカフェテリアの魅力と不満の集計結果を図8に示す。図における上のグラフが魅力、下のグラフが不満を表す。

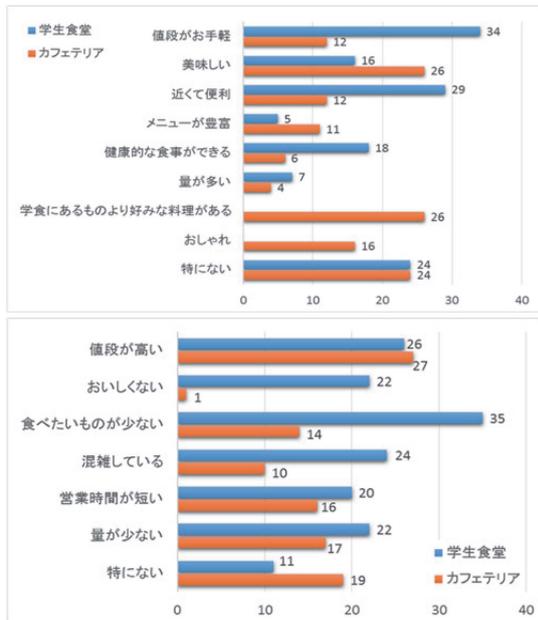


図8 学生食堂とカフェの魅力と不満

学生食堂の魅力としては「値段がお手頃」と答えた学生が3分の1程度と最も多かった。これは昼食に対して高い予算を持つ4年生の約半数がこれに回答したためである。しかしながら、不満としても約3分の1の学生が「値段が高い」と回答している。このため4年生以外の学生にとって価格は魅力としてよりも不満として捕らえられている可能性が高い。その他の魅力としては「近くて便利」、「特にない」と回答した学生が多く、本学の学生食堂の魅力度は低いものと考えられる。

一方、不満においては、「食べたいものが少ない」と回答した学生が最も多い結果となった。これは、他大学と比較して本学のメニュー数が少ないことに起因しているものと考えられる。また、学生食堂の料理が「美味しくない」と回答した学生は、「美味しい」と回答した学生を上回った。これらの結果から、本学の学生食堂は、価格、味の点で改善が必要であると考えられる。

カフェテリアにおいては、「美味しい」、「学生食堂にあるメニューより好みの料理がある」と回答した学生が最も多かったが、次いで多かった答えが「特にない」であっ

たことから学生食堂と比較してメニューは良いという判断をしている可能性が高い。不満については、「値段が高い」、「特にない」、「量が少ない」であった。このことから、カフェテリアにおいては味の点では満足しているものの、価格や量の面で不満に思う学生がいることがわかる。

上記の結果から本学の学生食堂、カフェテリア共に値段について不満に思っている学生が多く、また、魅力について「特にない」と回答した学生が、学生食堂では4人に1人に上ったことから、特段の理由なく学生食堂を利用している可能性が高い。

3-2-5 他大学におけるサービスの魅力度

他大学の学生食堂において実施されているサービスの魅力度の調査結果を図9に示す。すべての項目において魅力だと答えた学生が圧倒的に多い結果となった。その中でも「メニュー数が80品」、「お洒落な空間作り」、「期間限定メニュー」について魅力的と回答した学生数が多い結果となった。この結果から多くの学生が他大学において実施されているサービスの導入を希望していることが明らかとなった。

また、希望するメニュー数、営業時間について調査を行った。その結果、希望するメニュー数で最も多かったのは、50品の料理が学生食堂で提供されることを望む学生が最も多かった。50品という品数は、現在学生食堂で提供されている数の2倍に当たる。更に、営業時間については、「19時まで」と「18時まで」が多い結果となった。

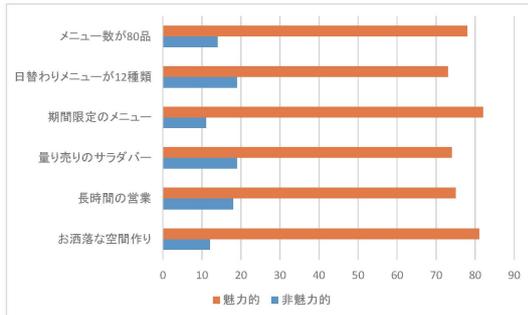


図9 他大学におけるサービスの魅力度

4. 考察

札大においては、豊富なメニュー数を誇る「カモール」に加え、ワンプレートメニューや鉄板料理を中心とする「サピオ」、高級感ある「小手毬」、毎日入れ替わる焼きたてのパンが味わえる「Palette」の4ヶ所の学生食堂が運営されていた。調査を行った大学の中では、多様なスタイルの昼食を提供しているという点で、最も先進的であったといえる。一方で、学園大の方が、1つの学生食堂で選べるメニュー数は多く、道工大では、日替りのメニューを数多く提供している。しかしながら、マイナビニュースが行った「【女性編】気分は学生？ 行ってみたい大学の学食ランキング」では、札幌大学は5位につけており、他大学にはない先進的な取り組みが、評価された結果であると考えられる[13]。

また、主要な学生食堂の利用者数については、本学の学生食堂において、学生数が本学より多い他大学と同程度の人数の利用が確認された。これにより本学の学生は、他大学に比べて学生食堂に依存していることが明らかとなった。また、時間ごとの利用者数において、昼休みに入る12時から12時半の時間帯の利用者数が、他大学と比較して多いことが明らかとなった。これらは、本学周辺に飲食店が少ないため、昼休みの時間帯に集中して学生食堂が利用されてい

るためであると考えられる。これを検証するためにYahooローカルサーチを利用し、各大学周辺の飲食店を検索した。Yahooローカルサーチは、地域内の店舗やイベントなどを検索可能なサービスである。検証では、大学から徒歩10分圏を想定した半径800m内の範囲において、業種コードをグルメとして検索した結果から菓子店などを除いた店舗数を計測した。その結果、本学周辺の飲食店の数は4店舗、道工大が22店舗、北翔大が8店舗、学園大が30店舗、札大が26店舗と本学が最も少ない結果となり、周辺飲食店の少なさが、本学学生の学生食堂の依存度の原因になっている可能性があることが確認された。

一方、他大学の学生食堂の利用経験により、学生食堂の満足度が変化することが明らかとなった。他大学の学生食堂の利用経験がない場合は、学生食堂の満足度は高かったが、利用経験のある場合には、満足度は著しく低下し、不満の割合も上昇した。このことから、本学は、学生の学生食堂の依存率が高いにもかかわらず、サービスレベルが低く、かつ、学生は満足しているかに見えるが、他大学の状況を知った場合、その満足度は急激に低下する可能性があることが示唆された。

また、昼食代の平均額は368円であったが、この予算額は、学生食堂における定食や日替わり丼、カレーライスなどの価格以下であるため、ラーメンやそば等しか選択の余地がない。また、カフェテリアにおいても予算内に収まるものは、主食の中ではミニDONのみである。このことから、本学の学生は、昼食のための十分な予算がなく、更に、学生食堂におけるメニュー数の少なさから組み合わせによる自由度が少ないため、選択の範囲が非常に限定的なものとなっていると考えられる。事実、アンケート調査では、学生食堂においてよく選ぶメニューは、そばとうどんが最も多い結果であ

った。更に、およそ2割の利用者が、持ち込みでの学生食堂の利用となっていた。これは予算によって、学生食堂で提供される料理ではなく、購買などで購入したもので昼食を済ませなければならないためであると考えられる。そのため、様々な価格のメニュー展開や、曜日や料理の組み合わせなどで割引を行うなど、価格面での施策を実施する必要があるといえる。

学生食堂の魅力について、特にないと答えた学生は4人に1人の割合であり、また、提供される料理を美味しいと答えた学生が16名いたのに対し、美味しくないと答えた学生が22名、更に、昼食にお金をある程度かけられる学生であっても、利用する学生がそれほど多くなかったことから、本学の学生は、学生食堂をあまり魅力的に感じていないと推察される。学生食堂を利用することが出来る昼食代を持った学生に、学生食堂を利用してもらうためには、現状よりも魅力的な学生食堂を運営していく必要がある。そのためにも、本研究によって明らかとなった魅力あるサービスの提供を実施する必要がある。

5. おわりに

本稿では、他大学の学生食堂の現地調査を行い、調査結果に基づき本学の学生食堂の現状を明らかにし、改善すべき点を考察した。現地調査から、他大学においては、豊富なメニュー数、充実した日替わりメニューの提供が行われており、本学と比較して、サービスの魅力度が高いことが確認された。更に、本学学生に対してアンケート調査を実施し、本学の学生の昼食における現状、学生食堂、及び、カフェテリアに対する評価を調査した。その結果、本学の学生は学生食堂、及び、カフェテリアに対して魅力を感じていないことが明らかとなった。

設備投資のための予算の都合はあるとは考えられるが、学生にとって一層魅力のある大学とするためにも、本研究の結果に基づき、今後、学生食堂、及び、カフェテリアの改善が行われることを強く望むものである。

参考文献

- [1] 大学プレスセンター：魅力のメニューが満載 進化する学生食堂<第一弾>，<http://www.u-presscenter.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1317>（2014年5月12日参照）
- [2] 大学プレスセンター：魅力のメニューが満載 進化する学生食堂<第二弾>，<http://www.u-presscenter.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1318>（2014年5月12日参照）
- [3] 神奈川大学：学生食堂，<http://www.kanagawa-u.ac.jp/campuslife/dininghall/index.html>（2014年5月12日参照）
- [4] 全国大学生生活共同連合会：留学生のWA! —大学生協はいつも留学生のパートナー—，<http://www.univcoop.or.jp/activity/>
- [5] マイナビウーマン：レシピ本「syunkon カフェごはん」×成城大学がコラボ！学食内で特別メニュー提供—期間限定，<http://woman.mynavi.jp/article/140403-127/>（2014年5月19日参照）
- [6] 神田外語大学：アジアン食堂「食神」，<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/facilities/cafe/asian/>（2014年5月19日参照）
- [7] 文部科学省：学校基本調査—平成25年度（確定値）結果の概要—，http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chouse01/kihon/kekka/k_detail/1342607.htm（2014年5月12日参照）
- [8] 日経トレンドネット：大学は「学食」で選ぶ時代??，<http://trendy.nekkeibp.co.jp/article/pickup/20130809/1051401/>（2014年5月12日参照）

- [9] 川原崎淑子, 小西春江: 女子学生の昼食実態調査—本学学生食堂利用について—, 園田学園女子大学論文集, 第31巻, II号, pp.47-65 (1996)
- [10] 五島淑子, 藤本美紀子, 濱名智美: 生協食堂の利用かみた大学生の食生活, 山口大学研究論叢. 人文科学・社会科学, 第52号, 1巻, pp.35-50 (2003)
- [11] 江田節子: 学生食堂の利用状況(現状)と課題, 関東学院大学人間環境学会紀要, 第12号, pp.43-51 (2009)
- [12] 安藤真美, 神田知子: 学生食堂の現状と課題—利用者アンケートによる分析—, 山口県立大学生生活科学部研究報告, 31巻, pp.49-55 (2006)
- [13] マイナビニュース: 【女性編】気分は学生?行ってみたい大学の学食ランキング, http://news.mynavi.jp/c_cobs/enquete/ranking/2013/21_4.html (2013年12月22日参照)